

好天の中、フルーツ狩りを楽しむ参加者



秋の味覚を満喫

室蘭民報社（野田龍也代表取締役社長）は11日、室蘭言泉学園が運営する子ども発達支援センター・あいくるの児童ら約60人を招待する福祉事業「壮瞥・フルーツ狩り」を実施し、くたもの農家浜田園で秋の味覚を満喫した。同事業は44回を数え、フルーツ狩りは22回目。室蘭市をはじめ、市社会福祉協議会、室蘭・登別遊技場組合、北海道コカ・コーラボトリング、北海道菓子工業組合室蘭支部が後援し、市内の各企業や団体が協賛した。

本社事業フルーツ狩り

児童60人招待

社 啓

子どもたちはさすがすがすがしい秋晴れの中、甘く熟した食べ頃のリンゴやブドウなどを選んで頬張り「とても甘くておいしい」と笑顔を見せた。参加者には昼食やジュースが配られ、秋の楽しい一日を過ごした。

あいくるの網嶋夕子センター長は「天気がよく、保護者の方々と一緒に、楽しい時間を過ごすことができました。子どもたちにとってフルーツ狩りは大変貴重な経験となりました」と感謝を述べた。

（箱崎文嘉）